

## 〈解答〉

- ① 1 名称：地租改正 Y：地券
- 2 ア
- 3 樺太・千島交換条約
- 4 ①：西郷隆盛 ②：士族
- 5 ウ→イ→ア（完答）
- 6 ウ
- 7 甲午農民戦争
- 8 ア

配点 各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 地租改正は、明治政府が財政を安定させるために行った政策である。1872年に政府は土地の所有者に地券を発行したうえで、1873年に地租改正条例を出し、米の年貢をやめて地価を定め、地価の3%を地租として土地所有者に現金で納めさせることにした。地券には、土地の広さ、所有者、地価、地租額などが書かれている。
- 2 民撰議院設立建白書は、板垣退助、江藤新平、後藤象二郎、副島種臣らが政府に提出した国会開設の要求書である。これは政府に時期が早いとして退けられたが、国会開設を要求する自由民権運動が発展するきっかけとなった。
- 3 日本はロシアと樺太・千島交換条約を結び、樺太島全域をロシア領とするかわりに、千島列島を日本領とした。
- 4 西南戦争は、1877年、西郷隆盛を中心として鹿児島でおこった士族の反乱である。不平士族におされた西郷隆盛は、約3万の軍を率いて熊本城を攻撃したが、政府軍に敗れ、鹿児島の城山で戦死した。この後、不平士族は武力による反抗をあきらめ、言論で政府を攻撃するようになった。
- 5 ウ 1881年、イ 1885年、ア 1889年である。
- 6 ノルマントン号事件は、1886年10月、イギリス貨物船のノルマントン号が和歌山県沖で難破し、イギリス船員は救助されたが、日本人乗客25人は全員水死したできごとである。イギリス領事裁判所は、イギリス人船長に軽い罰を与えただけだった

ため、不平等条約の改正を求める世論が高まった。ア征韓論は、鎖国中の朝鮮を武力によって開国させようとする主張である。欧米から帰国した岩倉具視、大久保利通らが国内の整備が先だとして征韓論をおさえたため、彼らと対立した西郷隆盛や板垣退助らは政府を去った。イ大逆事件は、1910年、政府が天皇暗殺を計画したという容疑で、計画に無関係な者を含め、幸徳秋水らの社会主義者を逮捕・処刑した事件である。エ江華島事件は、1875年、日本軍艦が朝鮮半島西海岸の江華島付近の水路調査を名目に領海に侵入して、朝鮮側に砲撃された事件である。日本は、これを利用して軍事的な圧力をかけ、日朝修好条規を結んだ。

7 甲午農民戦争は、1894年、朝鮮でおこった農民の抵抗である。東学を信仰する人々を中心に農民は「外国人の排斥・雑税の廃止・耕作地の均等化」などを求めて、朝鮮全域に闘争を展開した。朝鮮政府は清に援軍を求め、日本も朝鮮侵略の好機として出兵して日清戦争に発展した。

8 日清戦争の講和条約である下関条約で、日本は清に朝鮮の独立を認めさせ、遼東半島、台湾、澎湖諸島と、2億両（当時の日本円で約3億1000万円）の賠償金を得た。下関条約によって日本が遼東半島を獲得すると、清で利権を広げたいロシアはドイツ、フランスとともに遼東半島を清に返すよう日本にせまった。これを三国干渉という。日本は、軍事的に対抗する力がなく、遼東半島返還分のお金を清から得ることを条件にこれに応じた。